

様式1-3(統一栽培暦様式)

もっと安心農産物 ブロッコリー(秋冬どり)栽培暦(令和5年度)

JAちばみどり 海上野菜組合産直部

- 土づくり
 - ・エン麦・ギニアグラス・ハブソウを輪作体系として作付けする
 - ・完熟堆肥2トン/10aを施用する
- 施肥 ☆施肥診断にもとづく施肥量の遵守 化学肥料窒素成分使用量14.5kg/10a以下
基肥・追肥は①、②のいずれかを選択する。

	肥料名	施肥量
基肥	①ちばみどり有機888(8-8-8 有機態窒素 1.2)	140kg/10a以下
	②エコレット866(8-6-6 有機態窒素4.1)	180kg/10a以下
	苦土石灰	60kg/10a
追肥	①ちばみどり有機888(8-8-8 有機態窒素 1.2)	60kg/10a
	②エコレット866(8-6-6 有機態窒素4.1)	90kg/10a

- 防除 化学合成農薬 6成分回数まで(苗購入の場合5成分回数まで)
 (スピノース顆粒水和剤・ゼンターリ顆粒水和剤・Zボルドーは化学合成農薬に含めない)
 (オキシリニック酸を含む農薬(スターナ水和剤・ナレート水和剤)の総使用回数は合計2回まで)
 (ナレート水和剤は2剤カウントなので注意する)

月	管理作業	病害虫の発生推移	薬剤名	希釈 倍数・処理量	回数	対象病害虫	備考 (耕種的防除の実施)
7月 下旬~	は種	(ネキリムシ) (ハイマダラノメイガ・ヨトウムシ) (べと病・軟腐病) (アブラムシ・コナガ) (黒腐病)	①ネビジン粉剤 又は ネビリュウ	20~30kg/10a 播種又は定植前 全面土壌混和 20kg/10a 播種又は定植前 作条土壌混和	1回	根こぶ病	害虫の発生量を減らす為、圃場周辺の除草をする 黒腐病発生時 カスミンボルドー 1000倍(収穫21日前・4回) べと病発生時 アミスター20フロアブル 2000倍(収穫3日前・3回) コナガ・ヨトウムシ多発時 アフーム乳剤 1000~2000倍 (収穫3日前・3回) ディアナSC 2500~5000倍 (収穫前日・2回) グレーシア乳剤 2000~3000倍 (収穫7日前・2回) コナガ・ハスモンヨトウ多発時 プレオフロアブル 1000倍(収穫7日前・2回)
8月 月上旬~			②ランマン フロアブル	500倍 (定植前日~当日 使用方法 灌注)	1回	根こぶ病	
9月 月上旬	定植		③フォース粒剤	4kg/10a (定植時)	1回	ネキリムシ類	
中旬			④ハチハチ乳剤	1000~2000倍 (収穫7日前)	2回	アブラムシ類 アオムシ コナガ	
下旬			⑤コルト顆粒 水和剤	4000倍 (収穫前日)	3回	アブラムシ類	
10月 月上旬 中旬 下旬	追肥		⑥コテツ フロアブル	2000倍 (収穫3日前)	2回	アオムシ コナガ ヨトウムシ	
			⑦プレバソン フロアブル5	2000倍 (収穫前日)	3回	アオムシ コナガ	
			⑧スターナ 水和剤	2000倍 (収穫14日前)	2回	軟腐病	
			⑨⑩ナレート水和 剤*2剤カウント	1000倍 (収穫14日前)			
11月 月上旬 中旬 下旬	収穫		⑪フェニックス 顆粒水和剤	2000~ 4000倍 (収穫前日)	2回	ハイマダラノメイガ ヨトウムシ	
		★ 化学合成農薬に含めない農薬					
		スピノース 顆粒水和剤	5000倍 (収穫3日前迄)	3回	アオムシ コナガ		
12月 月上旬 中旬 下旬		ゼンターリ 顆粒水和剤	1000~2000倍 (収穫前日迄)	—			
		Zボルドー	500倍	—	花蕾腐敗病		

☆みんなで守ろう生産基準